



2015. 5. 28

NPOハート・オブ・ゴールド 活動報告集 2014

ハート・オブ・ゴールドの活動にご支援・ご協力いただいたすべての方々に感謝して、報告いたします。

私たちの活動に参加した人が希望と勇気が分かち合えますように。



被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困者層の人々に対して、
スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、
苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための
「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的としている。
特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、
彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

認定特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

URL: <http://www.hofg.org/>

<https://www.facebook.com/heartsofgold.japan>

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン事業
分類	スポーツを通じた開発支援(大会運営協力&組織化支援)
協働団体	カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、カンボジア陸上連盟(KAAF)、カンボジア観光省
活動概要	
大会趣旨:	
<ul style="list-style-type: none"> ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。 ・大会エントリー費用は義手義足支援と、地雷被災者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動等に使用。 ・健常者だけでなく、障がい者も、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。 ・カンボジアに対する世界各国からの支援に対し、感謝と元気なカンボジアを訴求する。 ・公認及び協カツアーの旅行代金の一部とその他寄付をカンボジアのスポーツ振興に役立てる。 	
テーマ: 「Building a better future - Aid for children and disabled in Cambodia」	
主催: カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、カンボジア観光省	
主管: カンボジア陸上競技連盟(KAAF)	
運営: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会、Cambodia Events Organizer Co., Ltd.	
後援: カンボジア政府、シエムリアップ州、観光省、文化・芸術省、教育・青年・スポーツ省、在カンボジア日本国大使館、ハート・オブ・ゴールド、在日本カンボジア大使館、APSARA Authority、カンボジア赤十字、カンボジアトラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、Angkor Hospital for Children、Royal Angkor International Hospital	
協賛: Manulife、メタウォーター、CAMBREW LTD.、Park Hyatt Siem Reap、Smart Axiata Co., Ltd.、Sponsor、Apsara Angkor Resort & Conference、ANGKOR SAYANA HOTEL & SPA、ロイヤルアンコール国際病院	
日時: 2014年12月7日(日) 午前6時30分スタート	
種目: ハーフマラソン(男女/車椅子男女)、10km ロードレース(男女/義足男女/義手男女)、3km ファン・ラン(オープン)	
コース: アンコール遺跡周回特設コース(AIMS 公認)	
プレイベント: ・【コースチェック(12/6)】 運営: CE ・【前夜祭(12/6)】 運営: 観光省、CE	
エントリー: オンラインエントリー(GAA 委託)、現地登録 CE	
参加者: 8,271人 79の国と地域 ※参加者、参加国ともに過去最高。	
チャリティ: 本年度: US\$19,400(カンボジア赤十字、カンボジア・トラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、カンボジア障がい者陸連、HG)	
第1回大会(1996)から第19回大会(2014)までの合計: US\$333,217	
特記事項:	
<ul style="list-style-type: none"> ● 有森代表は'96年の第1回大会から参加し、HGとしては'98年から特別運営協力を行ってきた。18回大会を迎える'13年にカンボジア側に広報、準備、資金調達、会計、運営を全面移譲した。カンボジア人の手による2回目の本大会は、スタート時に10kmのスタート方向を変更したため、運営側、ランナーが混乱してしまうという事態や3km及び5km地点の給水所の位置が分かりにくかったため、ランナーが交錯してしまうという問題が生じた。幸い大きな事故にはならなかったが、大会運営側も今回の問題を認識しており、次回以降対応していくとのこと。前年のメダルの授与等への対応は問題なかった。 ● 全盲の星純平さん(伴走: 加藤将士さん)が、1時間25分43秒という記録で、21km全体の中で7位に入賞。 ● HGとしては、日本からツアーとして25名が12月4日からカンボジアを訪れ、有森代表理事を含む全員での歓迎パーティ、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、ニュー・チャイルド・ケア・センター訪問、ランニングクリニックやJICAとの共同事業で実施している小学校体育科教育普及事業視察、アンコールワット国際ハーフマラソン等に5日間・6日間コースに分かれて参加した。 ● 来年度は20回記念大会を迎えるため、より多くの企画と参加者が期待される。 ● 有森賞(かすみがうらマラソンへの招待、2015/4/19開催): 10km女子4位 Heng Meyjouと義足10km男子2位 Orn Sok Hengの2名。 	
支援・協力団体: 吹田中ノ島チャリティラン、かすみがうらマラソン、(株)かねふく、(株)RIGHTS.、JTB 中国四国岡山支店	



7位入賞の盲人ランナー星さんと伴走者の加藤さん

事業名	カンボジア王国 小学校体育科教育支援事業（JICA 草の根技術協力事業）
分類	教育支援、組織化支援
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、地方教育局、モデル小学校、モデル教員養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材教材等、教育システムが根底から破壊された。パリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められているが、人間開発の根幹を担う情操教育は殆ど着手されていなかった。また、当該国では研究機関が未開発であるにも関わらず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっていた。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康・健全育成を保証する上で最も重要な体育科教育は、週 2 回行われる簡易運動のみに留まっていた。そこで、当会は教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、体育科教育授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年にかけて、指導要領の新訂、指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年にかけて、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。

2013 年 4 月から開始された新事業では、「カンボジアの小学校体育科教育において、教育・青年・スポーツ省学校体育スポーツ局が自立的に普及できる体制が確立される」ことを事業目標とし、教育・青年・スポーツ省担当官の増員及び育成、15 州（バタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州、バンテアイミンチエイ州、コンポンチュナン州、プレアビヒア州、コンポントム州、カンポット州、コッコ州、ラタナキリ州、ストゥントレン州、プレイヴェン州、タケオ州）での体育科教育普及、教育・青年・スポーツ省が独自に事業成果を継続できる体制作り等の活動を開始している。

本年度の活動概要

- JICA との草の根技術協力事業によって以下の活動を実施した。（2014 年 4 月～2015 年 3 月）
- 1) 第 2 地域（クラチェ地域）において、ラタナキリ州、ストゥントレン州でのモニタリング各 3 回、公開授業各 1 回
- 2) 第 3 地域（シアヌークビル地域）において、シアヌークビル州、コッコ州、カンポット州での新体育普及活動（①シアヌークビル州において地域トレーナー選出、②カンポット州、コッコ州においての拠点校選出、③RT 育成研修、④RT によるコッコ州での体育ワークショップ、⑤コッコ州、カンポット州においての新体育導入講習会、⑥コッコ州、カンポット州での体育授業モニタリング（3 回）、⑦コッコ州、カンポット州での公開授業）（2014 年 7 月～2015 年 1 月）
- 3) 第 4 地域（バタンバン地域）において、バタンバン州、バンテアイミンチエイ州、コンポンチュナン州での新体育普及事業（①バタンバン州においての地域トレーナー選出、②バンテアイミンチエイ州、コンポンチュナン州においての拠点校選出）（2015 年 1 月～3 月）
- 4) NTs、15 州の州教育局、郡教育局、教員養成校の教員を対象としたコンサルテーション・ミーティング（2014 年 8 月）
- 5) NT が 2 人 1 組となり、対象 9 州の年間モニタリング（2014 年 4 月～2015 年 3 月）
- 6) 教育・青年・スポーツ省学校体育スポーツ局長、NT12 名の本邦研修（筑波大学での研修や JICA 地球ひろばでの発表、文部科学省表敬等を実施）
- 7) 教育・青年・スポーツ省大臣等に対して、事業進捗報告及び提言（2014 年 12 月）
- 8) リズム運動をキャラクター化し、テレビ放映のための映像・音楽作り、交渉等
- JICA との草の根技術協力事業以外にも以下の体育科教育活動を実施した。
- 1) 教育省認定の指導書を 3174 部配布支援
- 2) コッコ州、カンポット州の拠点校への鉄棒設置、マット配布等
- 3) スヴァイリエン州ピートウヌ小学校及びプレアシアヌークにおいての教育省主導の運動会の開催



ストゥントレン州
公開授業の様子



本邦研修、リズム運動研修



教育省大臣に
プロジェクトを説明

次年度の実施計画

- 2015 年度は、JICA 草の根技術協力事業において、第 4（バタンバン地域）、第 5（シェムリアップ地域）地域での活動を終了させ、全 15 州での体育普及活動を終了し、2016 年 1 月以降は評価活動に移行していく。
- NT の専門家への認定、NT の認定、研究指定校の認定、授業の評価等、筑波大学と連携をし、各種評価表を作成していく。
- 15 州から先への普及に向けて、リズム運動のテレビ全国放送、体力測定映像化、教育省大臣を始めとした上官への働きかけを継続実施していく。
- 当会が地方出張の際、NT の年間モニタリングの際または青年海外協力隊との連携で体育をさらに普及する。

支援・協力団体

独立行政法人 国際協力機構/JICA、筑波大学、親子チャリティーマラソン in おもちゃ王国実行委員会、岡山国際交流協会、大光電機㈱、チャリティディナー実行委員会、篠山 ABC マラソン、岡山シーガルズ、倉敷市立精思高校、就実高校、光が丘春の風小学校、順天中・高校飛鳥会

事業名	カンボジア王国 中学校体育科教育支援事業（文部科学省戦略的二国間スポーツ国際貢献事業（スポーツ・フォー・トゥモロー）プログラム）
分類	教育支援、組織化支援
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、地方教育局、モデル小学校、モデル教員養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材教材等、教育システムが根底から破壊された。1991 年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められていたが、人間性の発達の根幹を担う情操教育は殆ど着手されていなかった。また、当該国では研究機関が未開発であるにも関わらず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっていた。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康・健全育成を保証する上で最も重要な体育科教育は、週 2 回行われる簡易運動のみに留まっていた。そこで、当会は教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、小学校体育科教育授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年にかけて、指導要領の新訂、指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年にかけて、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。現在は、「カンボジアの小学校体育科教育において、教育・青年・スポーツ省学校体育スポーツ局が自立的に普及できる体制が確立される」ことを事業目標とし、15 州（バットンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州、バンテアイミンチエイ州、コンポンチュナン州、プレアビヒア州、コンポントム州、カンポット州、コッコ州、ラタナキリ州、ストゥントレン州、プレイヴェン州、タケオ州）への普及と自立的普及に向けたシステムの構築に取り組んでいる。

一方、中学校体育に関しては、今で手付かずの状況であり、また、小学校と担当局が異なり、学校体育スポーツ局に加え、国立体育・スポーツ研究所も関わるため、制度的な整理と役割の明確化、人材育成等が引き続き必要である。カンボジアでは 2023 年の東南アジアゲームに政策の重点を置いている中、小学校・中学校の一貫した体育科教育を確率していくことは、国家政策的に見ても必要性は高い。

本年度の活動概要

●本年度は 2015 年 1 月より事業を開始し、3 月までに以下の活動を実施した。

- カンボジア国内中学校の体育授業視察による実態調査
 - パイリン州 5 校の体育授業のモニタリング及び校長、教員、生徒等へのインタビューとアンケートを通じた調査
 - コンボンチャム州 5 校体育授業のモニタリング及び校長、教員、生徒等へのインタビューとアンケートを通じた調査
- 教育・青年・スポーツ省 9 名を対象とした本邦研修の実施
 - 文部科学省教科調査官による日本の体育システムの講義
 - 筑波大学岡出義則教授によるカンボジアの中学校体育科教育システム構築の進め方についての講義
 - 岡山大学原祐一助教授によるカンボジア体育の方向性についての講義
 - 岡山県教育委員会小川泰永先生による日本の体育システム（県教育委員会の役割）についての講義
 - 東京都（麹町中学校）、神奈川県（霧ヶ丘中学校）、岡山県（岡山大学付属中学校、岡北中学校、操山中学校）の計 5 中学校、1 小学校（岡山大学付属小学校）の視察
- 岡山大学原祐一助教授を講師としたカンボジアにおける中学校体育科教育の方針を検討するワークショップの開催
 - 指導要領・指導書の位置づけをそれぞれ再確認
 - 学校体育スポーツ局、国立体育スポーツ研究所、州教育局、中学校校長及び体育教員それぞれの役割の明確化各役職においての 3 年間計画の策定等
 - カンボジアに期待する体育・スポーツについての理想像の検討等



コンボンチャム州中学校の体育授業の様子



麹町中学校日本体育システムの説明を聞く本邦研修参加者



ワークショップでカンボジアの中学校体育について考える参加者

次年度の実施計画

- 正式に事業を実施するための教育・青年・スポーツ省との M/M の締結
- 運営委員会及び技術委員会の設置
- 技術委員会を対象とした指導要領作成のためのワークショップ
- 本邦研修を通じた技術委員会メンバーの能力向上
- 周辺国体育制度調査
- 指導要領のドラフト作成等

支援・協力団体

文部科学省、日本スポーツ振興センター、筑波大学、岡山大学、岡山県、岡山市、本邦研修受入れ小・中学校

事業名	カンボジア小学校運動会実施支援
分類	スポーツ事業支援、組織化支援
協働団体	カンボジア教育・青年・スポーツ省、岡山大学教育学部、岡山県、岡山市

活動概要

期間： 自 2014 年 7 月 1 日 至 2015 年 2 月 28 日

場所： 実施校（継続、12/20）シエムリアップ ワット・チョーク小学校（児童数 1,200 人（2部制）、教職員数 36 人）

（新規、12/26）スヴァイリエン ピートゥヌー小学校（児童数 511人、教職員数 36人）

（新規、12/27） 同 プレア・シアヌーク小学校（児童数 641人、教職員数 48人）

内容： 現在進めているカンボジアでの小学校体育振興事業の成果を図ることを目的とし、また「スポーツ文化の楽しさをみんなで体験する」ことを目標に、体育モデル指定校において、行政と学校が主体となった運動会実施の支援。

今年度の事業目的は、前年度に実施支援したワット・チョーク小学校の継続実施と、新規実施ならびに同国教育・青年スポーツ省行政官であるナショナルトレーナー（NT）の指導力向上であった。

ワット・チョーク小学校は、本年度は NT によるモニタリング時の事前指導のみで、規模を縮小しながらも学校教職員によって準備、自力開催を行なうことができ、現地化に向けて進んでいることが証明され、本事業の重要な成果となった。



新規校については、前年度の課題から、NT が作成したマニュアルを用いて事前（9 月）に教員対象のワークショップを開催することで、教員らが運動会のイメージを持つことができ、プログラム作成や練習が自主的に行えるようになった。当初の予定では、新規実施は体育拠点校 1 校であったが、2 校から希望があり、NT（NT6 人、サブ NT6 人）、派遣専門家、HG スタッフ、学生ボランティアが 2 つのグループに分かれて、連日開催とした。NT 個々への負荷が増すことで、結果的に各自が役割をみつけ、リーダーシッ

プを発揮しながら活動を行ない、NT のスキルアップという事業目的も十分に達成できたといえる。プレア・シアヌーク小学校では、教員らから用具が十分でないため練習ができないなどの不満もあったが、練習を進めるなか NT が丁寧に対応し、ひとつひとつ協議を重ねていくことで、多くの教員が日を追い自主的、積極的な関わり方へと変化し、当日は子ども達と同様に教員らも熱中して一体感が生まれていた。また、拠点校の体育指導者の立場にある RT（地域トレーナー）の指導力も向上。



運動会当日は、教育青年スポーツ省次官補（26 日）、スポーツ総局長（27 日）や市長などが来賓として参加。また保護者や地域住民も応援したり競技に参加したり、皆が楽しめる運動会となっていた。

NT は、本事業の体育科教育振興への効果を認識しており、普及のためのマニュアル完成と指導技術向上のための日本での運動会に特化した研修の予算を既に確保している。今後も小学校体育科教育振興にあわせ、教員への技術伝達とともに、中央から地方にシフトしていけるような取り組みを行っていく。このほか、NT、HG の間接的サポートでチアシム小学校、ワット・ポー小学校の 2 校が運動会を実施している。



【事業担当者】：派遣専門家（1 次）1 名、（2 次）3 名（岡山大学教育学部保健体育講座講師 原祐一 氏、岡山県教育委員会保健体育課副課長 小川泰永 氏、岡山市教育委員会保健体育課主査 寺尾知浩 氏）ナショナル・トレーナー（サブを含む）12 名、HG スタッフ 7 名、医師（ジャパンハート）1 名、通訳 1 名、学生ボランティア 11 名（岡山大学 10 名、カンボジア人学生 1 名）

特記事項： ニュース映像を以下 URL より視聴可 <http://youtu.be/vEGbyL6v5-Y> / <http://youtu.be/b5DrvPzbAv0>

支援・協力団体：岡山県、JVA バレーボールバンク

事業名	カンボジア・ジュニア・サッカー・トーナメント (HG Cup) 2015
分類	教育支援、スポーツ
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省

活動理由

カンボジア教育・青年・スポーツ省(以下、MoEYS)と認定 NPO/NGO ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)は、2006年よりカンボジアの小学校体育科教育普及事業を実施している。サッカー大会を通じて、体育の授業で学んだ成果を発揮する場を 15 州の子ども達に提供すると共に、子ども達がプノンペンに来ていろいろな人に出会い、学べる場を提供するために本サッカー・トーナメントを開催している。またサッカーを通して子ども達に夢を与える。

本年度の活動概要

【2015年2月7日】開会式及びグループリーグ

開会式: HG 東南アジア事務所長西山直樹、Army FC の太田敬人選手、MoEYS 事務次官補の BOU Chumserey 氏。クメール体操の準備体操写真撮影、ルール説明、グループ分けを実施。

グループリーグ:

MoEYS 及び HG が新体育を普及する 15 州の小学校の生徒+プノンペン州チーム(GFA SORIYA)の生徒が 4 つのグループに分かれ、グループリーグを実施。

グループ I: スヴァイリエン州、タケオ州、ラタナキリ州、プノンペン(GFA Soriya)

グループ II: プレアヴィヒア州、コンポントム州、コンボンチュナン州、バンテアイミンチェイ州

グループ III: カンポット州、シムリアップ州、プレイヴェン州、シアヌークビル州

グループ IV: ストゥントレン州、バタンバン州、コックン州、クラチェ州

スヴァイリエン、プノンペン、バンテアイミンチェイ、コンボンチュナン、カンポット、シアヌークビル、コックン、クラチェの 8 チームが 2 日目の決勝トーナメントに進出。

* 試合後は全員でごみ拾いをし、会場をきれいにした後解散。



<開会式集合写真>



<試合の様子>

【2015年2月8日】決勝トーナメント及び閉会式

決勝トーナメント: ①スヴァイリエン州、②バンテアイミンチェイ州、③カンポット州、④コックン州、⑤プノンペン、⑥コンボンチュナン州、⑦シアヌークビル州、⑧クラチェ州

順位: 1位:コックン州、2位:プノンペン、3位:スヴァイリエン州、4位:クラチェ州

閉会式: UEDA Coffee より優勝チームに対し、コーヒーが提供された。試合結果を報告した後、5-8位、4位、3位、2位、1位の順で中古・新品ボール、ユニフォーム、短パン等を授与。授与者には MoEYS 関係者、ヤマハモーターズ様、Army FC の太田選手、CONY、ジャパンハート、審判代表者、MoEYS 事務次官補の BOU Chumserey 氏。

閉会式終了後に全員で写真撮影。閉会式後にごみ拾い。



<優勝のコックン州>



<大会を通して友情を深め、協調性を学びます>

特記事項:

- 今回試合中のケガ、病気等に対応する為、NPO Japan Heart が日本人医師を含む計 5 名体制で常駐。大会当日に腕を骨折した子がいたため病院に搬送した。以後、経過を観察している。
- 大会期間中、UEDA Coffee がコーヒー及びオレンジジュースの移動販売を実施。
- 大会 2 日目に Century 21 より参加者全員にコーヒーが提供された。
- 大会 2 日目、9:00-10:00 の間に GFA Soriya がサッカークリニックを実施。
- 最優秀選手賞として Army FC の太田選手より閉会式でコックンの子供にユニフォームが授与された。
- 今回大会顧問を務めていただいた河野通博氏の協力により、宮崎県串間市や日南市の方々から寄付を募っていただいた。日南市の榎原中学校からはサッカーボールの寄付もいただき、大会期間中サッカーボールや写真の展示で HG の活動や日本の子供たちからのメッセージを紹介。
- 大会初日にはレアクスマイカンボジア(新聞社)、バイオン TV のメディアも出席し教育省事務次官補へのインタビューを実施した。

次年度の実施計画

- 2015 年度中に第 4 回カンボジア・ジュニア・サッカー大会を開催予定。具体的な参加時期、参加州等は未定。

支援・協力団体

富士ハウジング(株)、Ikka Akinari & Eri, Yamaha Motor Cambodia Co., Ltd., Krotma Tours, NPO Japan Heart, GFA Soriya, Café a and Bar CONY, Kurata Pepper, Ueda Coffee, Jin Grilled Beef Restaurant, モンキーズ SC, エイコースポーツ, モルテン

事業名 ハート・ペアレント事業 <ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)>

分類 青少年育成(自立支援) <日本国際協力財団NGOパートナー支援(第3年度)事業>

NCCCの意義と意味: 孤児、あるいは孤児に準ずる子供(両親、親戚が養育できない状態におちいった子どもが、安心して生活できる環境の下で、養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

居住地: シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村

支援の里子: 17名(2015年3月31日現在)

校外教育

- ・日本語教育:1月末まで週5日(月～金)HG睦日本語教室にて、9名が日本語を学習した。
- ・英語教育:週4日(月～木)二つのレベルに分かれて16名が学習。
指導者:プラッ・シナー
- ・アプサラダンス(クメール伝統舞踊):毎週日曜日の午前に2時間習っている。
センター訪問者への披露のほか、3月に行われたセンター近隣の結婚式に呼ばれ披露することができた。指導者:ソチャット
- ・絵画教室:月2回(隔週の土曜日午後)「小さな美術スクール」(主宰者・笠原知子先生)にて、絵画教室(油絵やアクリル絵)に参加。毎年ウォーキングイベントのTシャツは本年も子ども達の絵で作成。シェムリアップ市内のホテルでの絵画展に出展。また、日本の小学校(5校)でも絵画展を開催。



事務所・図書コーナーの完成・歯科治療

4月に事務所が完成した。スタッフが机を並べて仕事ができる場ができ、資料などを整理して安全に保管できるようになった。また大部屋の中に図書コーナーが完成し、入所児童や近隣の子ども達も本に親しめる環境ができた。12月TAO東洋医学研究会のDr.たちに、長年の悩みであった歯科治療と虫歯予防教育を実施していただいた。



チュート・スライノッチ(センターのスタッフ)日本で研修

岡山県の「国際貢献技術移転事業」の研修員(養護施設の運営や保育技術習得)として7月から4か月間、岡山市の養護施設や乳児院で研修した。

おいしい教室の開催

チェイ村の主婦を対象に健康のための教室「おいしい教室」(保健・栄養・料理)を昨年に続き開催した。料理教室はシェムリアップ市内のレストランのシェフによるカンボジア料理、西洋料理などを学んだ。保健教室では看護師や放射線技師による、デング熱や健康についての学習。ほか普段運動をすることのない主婦の方にエアロビクス教室や美容師さんに来ていただき洗髪、散髪、セット、メイクについての教室も新しく開催しとても好評だった。年度末にはチェイ小学校の子どもに向けての食育も開催。6年生対象の栄養教室を行い、その後野菜たっぷり栄養満点の日本のカレーとフランスパンを全校生徒(約800人)で食べた。おいしい教室参加の主婦のみなさんやチェイ小学校の先生も協力し楽しい学校行事となった。



日本との交流

北海道の高校生や岡山学芸館高等学校、清秀中学校の生徒、岡山大学の学生、そしてハートペアレントの方々、HGツアーの方など(年間16回受入)多くの日本人がNCCCを訪問され、継続した交流ができています。また年間を通じて本年も、岡山の小学校との手紙の交換のほか、スカイプにて、手軽にお互いに顔や声が聞ける交流が可能となり、日本とカンボジアが身近に感じられ、両方の子ども達にとって、いい体験ができるようになった。留学中のサオピアもスカイプで時々子ども達と交流している。

支援・協力団体

日本国際協力財団、ハート・ペアレント、スタディーツアー参加者、TAO 東洋医学研究会、高野山真言宗南真会、岡山県、岡山国際交流協会、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山ビューティモード専門学校、協力小・中・高・大学

事業名	日本語教育事業
分類	自立支援(青少年育成)
支援対象	ハート・オブ・ゴールドむつみ日本語教室

活動理由

カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、自立のために現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。HGは日本語教育のための派遣教員として、2000年9月から松尾睦先生をシムリアップに派遣した。現地調査の結果、シムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校内において、2001年6月より無料の日本語教育を始めた。2002年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を新築して、現在では4クラスが毎日1時間ずつ日本語を学べるようになった。日本語教育には高等教育という理由で、助成金がほとんどなく、下記の団体の寄付で活動できている。

活動概要

1. 人数:「つばき組」(8名)「ばら組」(13名)「すみれ組」(18名)「チューリップ」(名25) 計64名
2. 時間:月曜日～金曜日 午前7時～10時、午後12時～3時
3. 内容:つばき組,ばら組(日本語検定2級、3級目標)

日本の学校との交流(14年目)

日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作りカルタ、手作りカレンダー、文房具等)を送ってもらい、日本語教室内は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られており、その教材を使って授業が進められている。2008年より岡山学芸館高等学校の高校生が、2012年から岡山学芸館清秀中学校の中学生が研修旅行として、シムリアップで数日滞在し、日本語教室で子ども達と大変有意義で、素晴らしい交流が来ている。

教室訪問・物資支援

12月15日:岡山学芸館高等学校の生徒50名と先生4名が日本語教室訪問。授業に参観し、声に出して読む日本語の「早口言葉」、「尻取り言葉」、落語の「寿限無」を勉強した。狭い教室に80人近い生徒が参加したがみんな真剣で、大変な盛り上がりだった。その後交流。全員によるダンスで盛り上がる。それから、2つのグループに分かれ、1グループはサッカー大会。暑さをもとめせず、みんな懸命にボールを追っていた。もう一つのグループは「コースター作り」をした。それぞれがとてもユニークで、かわいいコースターがたくさん作れた。準備万端、たくさんの材料があったので次の日はサッカーチームもコースター作りをした。後日、自分が一番気に入ったコースターに「ありがとう」のメッセージを書いて学芸館の皆さんにお礼として送った。有意義で素晴らしい交流となった。2015年1月19日:岡山学芸館清秀中学校の生徒30名と先生4名が日本語教室訪問。「動詞可能形」の勉強をした。授業の中で、清秀中学生が日本の国歌を歌い、日本語教室の生徒がカンボジアの国歌を歌って交流した。学芸館の校歌も1番を日本語教室の生徒が歌い、2番を清秀中学校の生徒が歌い、大変盛り上がった清秀中学校の皆さんがとっても喜んでくれた。心の通った素晴らしい交流となった。その後、「現地で一緒に作る」のテーマでいろいろ日本的な物を作って楽しんだ。訪問団体、学校、企業、個人支援者の皆様より、靴、制服、文具、日用品などの支援を多数受けた。

卒業生の動向

日本語教室を卒業した生徒の動向としては、日本語ガイド、看護師、日本語教師、地元企業での勤務、遺跡修復施設の日本語案内、調理専門学校で修行中、ホテル勤務、地元旅行会社勤務、俳優養成所勤務等々、それぞれ自立して頑張っています。大学に通って頑張っている青年もいます。

今後の活動 HG睦日本語教室は2015年1月末をもって閉校した。チェイ小学校内での初級日本語教室を継続するとともに、多くの青少年が日本語を学べるように、中級・上級日本語講座の開設を準備している。留学を希望する青少年に機会を与え、日本企業への就職を視野に入れて活動を広げる。

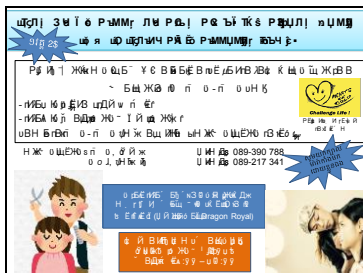
支援・協力団体 コニシ(株)、大光電機(株)、留学里親、那須食品(株)、岡山学芸館高校・清秀中学校、倉敷平成ライオンズクラブ、岡山外語学院、姫路東ロータリークラブ、個人支援者、岡山市立福島小学校、第三藤田小学校、政田小学校、平福小学校、西大寺小学校、野谷小学校、曾根小学校、伊島小学校



事業名	浄水器の設置
分類	自立・復興支援
設置場所(3か所):	
<p>① チェイ小学校 シェムリアップ州 シェムリアップ市 Tek Vill Commune, Chey village</p> <p>② ピートウヌー小学校 スパイリエン州 スパイリエン市 Prey Chhlak Commune, Sala srok chas Village</p> <p>③ NCCC(New Child Care Centre)シェムリアップ州 シェムリアップ市 Tek Vill Commune, Chey village</p>	
プロジェクト実施期間:	
① 2014年6月～9月 ② 2014年11月～12月 ③ 2015年1月	
設置の目的と設置後の効果:	
<p>多くのカンボジアの学校や児童施設には井戸があり、トイレや手洗い用に利用していますが、井戸水は飲めるような衛生状態ではありません。都会の学校に敷設されている水道の水も同様で、日本のような飲用可能な水ではありません。そこで、浄水器(アメリカ製/日本製)を設置して井戸水や水道水を浄化・除菌し、子どもたちに安全な水を思う存分に飲んでもらいたいという想いから、学校とNCCC(児童施設)に浄水器を設置することにしました。</p>	
<p>カンボジアは一年中暑い気候なので、運動の後にはどうしても喉が渇きます。小学校の子供達は、今までは家から水筒に水を入れて持ってくるか、売店で売っているペットボトルの水を買うしかなかったのですが、浄水器が設置された今では、思う存分に水飲み場で水を飲めるようになりました。HGが進めている体育教育の推進のためにも、運動の後にいつでも水が飲めることが役立っていくはずで</p>	
<p>NCCCの子供達も同様に、蛇口の水が直接飲めるようになり、飲み水でお腹をこわす心配が無くなりました。</p>	
小学校での浄水器設置に至るまで:	
<p>小学校ではまず、水飲み場の建設から始まりました。水飲み場は今までの学校には無いものなので、工事の担当者も作ったことがありません。そこで、遠隔地にある既設の水飲み場の写真と図面を見せて、その通りに作って欲しいと依頼したところ、作業前の心配は杞憂となり、日本と同様の立派な水飲み場が完成しました。また、水飲み場から流れ出る排水を貯める貯水池を掘り、子供が落ちたりしないよう、蓋で覆いをしました。浄水器の設置については、ポンプの専門業者が現場にやって来て手際よく設置を完了させました。</p>	
<p>浄水器に流し込む水の水源は井戸水か水道水ですが、いずれも水源からパイプを敷設して浄水器につなぎ、流し込んだ原水を浄水器で浄化した後に、そこからパイプで繋いだ水飲み場や台所に浄化された水を送り、子どもたちはそこで清潔な水が飲める、という仕組みです。水飲み場や台所の水は、HGが水質試験場に持ち込んで検査を行い、間違いなく飲用可能な水であることを確認しています。</p>	
<p>浄水器の保守:</p>	
<p>HGは今後5年間、定期交換用の部品と修理サービスを各校に提供する予定です。</p>	
<p>また、浄水器のフィルターを清潔に保つには毎日の保守が必要のため、各校から2～3人ずつ担当教員を選んでもらい、フィルターの洗浄方法の研修を行いました。研修を受けた先生たちが毎日フィルターをチェックし、汚れがあれば洗浄して、安全な水が提供されるように監視しています。</p>	
今後の設置予定:	
<p>ハート・オブ・ゴールドでは体育の普及活動を後押しするために、浄水器や水飲み場の設置を今後も進めていく予定です。</p>	
<p>支援・協力団体: 岡山南ロータリークラブ(2校の浄水器①②)、岡山学芸館高等学校/清秀中学校(NCCCの浄水器③)、NGO Splash</p>	



事業名	美容ワークショップの開催
分類	自立支援
開催場所:	
美容室 Salon A, シェムリアップ州 シェムリアップ市 Slorkram Commune, St. Angkor Conservation	
実施期間:	
2015年1月～3月 週1回(各3時間ずつ)の頻度で、全8回のワークショップを開催	
講師:	
鈴木彰義氏(シェムリアップ在住の日本人美容師)、通訳・スライノッチ(HG/NCCC職員)	
美容ワークショップの目的:	
カンボジア人美容師、および美容に興味がある若者に、日本の美容技術を教えることで彼らの美容技術の向上を目指した。また、本格的な美容学校を将来立ち上げるためのマーケット調査(日本の美容技術を教わりたいというニーズがあるかどうかを知るため)も兼ねて実施した。	
美容ワークショップの参加者:	
毎回のワークショップに7～8人(場所の関係上)が参加し、全8回のワークショップに参加した延べ人数は61名だった。参加した人達の経歴は、カンボジアで美容師として働いている人(経験1年、3年、10年など経験年数はそれぞれ異なる)もいれば、美容に興味がある若者たち(現職は、学生、ネイリスト、店舗の店員、ウエイトレス)など様であった。	
美容ワークショップの内容:	
まず美容道具の名前を覚え、ハサミの使い方を練習し、その後にヘアーカットの基本(One Length, Gradation, Layard, Men's short cut)を講師が丁寧に指導した。ワークショップごとにテーマを変え、数々のカット技法を習得した。	
ワークショップの進め方は、まず鈴木講師が日本語で説明しながら実演し、それを通訳(スライノッチ)がクメール語に通訳。その後で、生徒1人に1つずつ用意されたマネキンを使って実際にカットの練習を行った。	
ワークショップ後の評価:	
カンボジアの美容学校を卒業して美容師として働いている方も数名参加されたが、今回のような丁寧な説明は、美容学校でも聞いたことがなかったとのことで、多くの学びを得られたようだった。一度参加した人は、継続して何度もワークショップに参加したことからも判るように、美容ワークショップに参加した人の満足度は高かったと思われる。	
ハサミの持ち方やカット技法も、日本では基本中の基本として最初に教わることだが、カンボジアの美容学校ではそのようなことも正しく教えられていないようで、日本の美容技術を教える美容学校のニーズは大いにあると思われる。	
道具や資材の調達方法:	
ワークショップを支援して下さる日本の美容師の方々から、ハサミ、櫛、クリップなどの支援品をカンボジアに送って頂いた。足りないものや、マネキンのような大きな材料は、現地で調達した。	
今後の予定:	
2014年度に初めて開催したが、2015年度も新しいテーマで美容ワークショップを継続開催していき、将来の自立支援職業訓練センターに発展させていきたい。	
支援・協力団体:	
Laff Hair 美容関係者(6名)、カモンR美容室、岡山ビューティーモード専門学校、岡山県美容生活衛生同業組合	



事業名	3.11 子ども animo プロジェクト
分類	自立・復興支援
支援対象	3.11 被災小学校（宮城県・福島県）

活動理由

2011.3.11 に起った未曾有の東日本大震災に対して、HG石巻クラブと、HG福島クラブと連携して、継続的支援を実施しています。緊急支援から復興支援に移り、学校も仮設から、修復・新設建築した所もありますが、現地に行ってみると、まだまだ道のりは遠いように感じます。

HGがおこなってきた明日を担う子ども達と、そしてそれを支える現場の先生たちが元気になれるよう、「3.11 子ども animo プロジェクト」を、下記のように今年も進めました。



<太陽光街路灯 >

活動概要

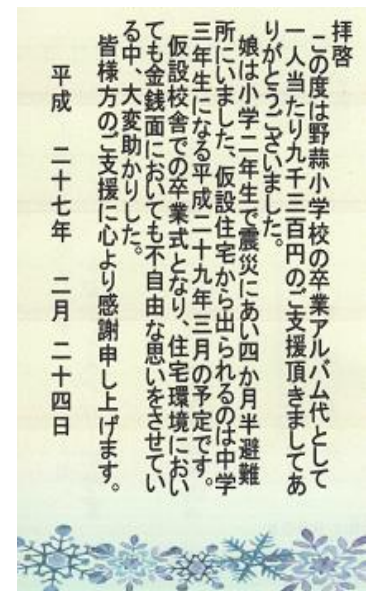
全国からの支援が減少している中、㈱ロード&スカイ様の資金をもとに、福島市からの支援要請を受けて、下記学校に太陽光街路灯を設置しました

設置箇所:① 福島市立蓬萊小学校 ②佐倉小学校 ④余目小学校に3基ずつ設置。子ども達のクラブ活動や、地域の方々への夜間開放にも大変役に立っているとのこと。施工にあたっては、HG 福島クラブが実施。他に、継続活動として、東松島市立野蒜小学校に、要請にこたえて全校校外学習のための交通費(バス代)と卒業アルバム代などを支援しました。野蒜小学校は本年度から体力づくりとして、全校で持久走を始めたと報告がありました。



<野蒜小学校の運動会>

HG 石巻クラブの木村先生からは、頻りに渡波小学校通信が送られてきて、元気に育っている子ども達の様子がよく解ります。子どもの笑顔は未来を照らします。震災当初、蛇田小学校に寄贈した庭に、今年も桜が咲き、復興庭園が成長し花壇に花が咲いていたり、支援した鼓笛隊の制服が大活躍しているとの報告に、私たちも元気をもらいました。



<保護者からのお礼状>



<渡波小学校:いつも元気な木村学級>



<渡波小学校鼓笛隊>

次年度の実施計画

- ・HG石巻クラブ、HG福島クラブと協力して学校の復興支援継続
- ・野蒜小学校はH27年度で閉校となり、H28 年度からは、宮戸小学校と統合して「宮野森(みやのもり)小学校」として新たなスタートを切る予定です。

支援・協力団体

JS ファウンデーション、㈱ロード&スカイ、日本警察・消防スポーツ連盟、淀川国際ハーフマラソン、(株)翌檜、スプリング・チャリティーデナー実行委員会、絆の会(アニミュージアム)、ボランティア支援マラソン(一家明成&恵理) 個人支援者、HG福島クラブ、HG石巻クラブ

事業名	サービスラーニング(ESD=持続可能な開発のための教育)事業
分類	国際理解教育・交流支援(青少年育成)
支援対象	小・中・高校・大学・HG むつみ日本語教室、New Child Care Center(NCCC)、カンボジア体育科教育研究指定校

活動概要

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。

子ども達が、世界の現状(貧困・環境・平和など)に目を向け、グローバルな視点から、国際理解(異文化理解)を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演、IT 機器による交流(メール、スカイプなどを利用)、ビデオ、文通、カンボジアの留学生・研修生などの話を聞く、現地を訪問するなど、できる限りの手立てを利用。そして交流した中で、異文化理解、持続可能な開発などについて考え、自分の生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。

1) 出前授業

18 回の出前授業を実施(代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生)

実際に活動している人から話を聞くことにより、自分たちでも出来る活動を考える。

岡山市立平福小学校 岡山市立西大寺小学校 岡山市立第3 藤田小学校 岡山市立野谷小学校 岡山市立政田小学校 岡山市立曾根小学校 岡山市伊島小学校 東京光が丘春の風小学校 岡山清秀中学校 岡山学芸館高校 倉敷市立精思高校 岡山大学 他



2) 交流

手紙や、プレゼントの交換をしたり、ビデオやスカイプによる交流を通して異文化理解を深めた。日本の教室と現地をスカイプで結んで、お互いに歌や、スポーツを披露しての交流は、両国の子ども達にとって、直接顔が見え、声が聞こえることになり、感動的であった。

2) 発表

10月11日に岡山市で開催されたESD 世界会議の場で、協力小学校である政田小と第3藤田小学校が発表。世界からの参加者を前にして、自分たちの取り組みや考えを発表し称賛を得た。



4) 設備・物資支援 (日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材に使用)

アンコールウォーキング大会、体育教育研究指定校、カンボジア・ジュニアサッカー大会、運動会などに必要な物資を、日本の協力学校が集め、ツアーで持ち込み必要な所に配付した。

支援物資は T シャツ、体操服、教材、文房具、歯ブラシ、カレンダー、石鹸、タオル、遊具など。

施設支援は 浄水器、鉄棒、雲梯、サッカーゴール、バスケットコート、平均台、マット、ボール他

5) 現地受入れ(29 組)

高校生・大学生、NGO などのステイターや個人を、カンボジア活動現場にて受入れ、国際協力や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、グローバル人材育成に寄与。



成果

年間を通じて、途上国に関わることで、それぞれが、貧困、環境、食料、人権、平和など、どれもつながりをもって関係している事を知り、自分たちで出来る事があることを実感した。また、自分たちの環境、教育、家庭、地域などに目を向け、持続可能な社会を、協力して作ることに向かう。そして自分たちが支援した物資などが、現地に渡され喜ばれたことを確認し、今後もできる支援に取り組む動機づけとなった。中・高校生には将来の進むべき道にも影響を及ぼしたようだ。自分の身の回りから変えていく事に気が付き、友人や家族と共に活動して、社会を変えていく喜びを感じた。



今後の計画

2014年度も岡山ビューティーモード専門学校の協力で留学生が勉強を続けている。留学生もできる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組むESD「持続可能な開発のための教育」に協力して、実践を通して地球規模で未来を考え、社会性を育てる協力活動を進めたい。日本語教育も中等・高等教育にも着手していきたい。

助成・協力団体

岡山ESD推進協議会、協力小・中・高校・大学、大光電機㈱、個人支援者、岡山ビューティーモード専門学校

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業概要	事業内容	実施日	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン後援 ・アンコールウォーキング大会	・主催者であるカンボジアオリンピック委員会、陸上競技連盟の自立運営を見守りつつ、第 20 回大会を共に盛り上げる。 ・遺跡内でウォーキング大会を開催。[参加料の一部は、カンボジアでの国際協力活動に使用。] イベント内でエイズ予防の広報活動を実施	12/3～ 12/6 (12/4)	カンボジア (シエムリアップ)
	・スポーツイベント ・チャリティイベント	・国内のチャリティマラソン・スポーツイベントなどを実施協力 ・チャリティイベントの主催・後援・協力など開催協力	4 月～ 3 月	日本 (全国)
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興 (JICA 草の根技術協力事業) ・運動会実施の指導 招へい(日本での短期研修) ・中学校体育科教育振興 ・スポーツ施設設置・建築 ・カンボジア・ジュニア・サッカー大会	・カンボジア小学校体育科教育普及第 3 フェーズを、教育・青年・スポーツ省 (MoEYS) と協働で実施。MoEYS 担当官 12 名の育成、地方での新体育普及体制確立の為に活動を実施。2015 年度は 6 州でワークショップ・モニタリングを実施。2015 年 1 月からは 5 地域の評価を実施予定。 ・カンボジア教育省主導の運動会の実施及び指導技術の確立。MoEYS 担当官の日本での研修を実施。 ・中学校体育科教育の指導要領作成のための活動。 ・体育科教育実施の学校に必要なスポーツ施設を設置・建設。 ・体育科教育の成果を発揮する場としての第 4 回サッカー大会を開催。	4 月～ 3 月	カンボジア (プノンペン、バットアンバン、バンテアミンチエイ、コンポンチュナン、シエムリアップ、プレアヒア、コンポントム他)
障がい者支援事業	・障がい者スポーツの振興 ・日本の大会へ招へい	・障がい者スポーツ振興支援 ・障がい者ランナーの日本のマラソン大会への招へい	4 月～ 3 月	カンボジア
被災地、紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育 ・日本との交流	・大学内での日本語講座開設による青少年への日本語教育を拡大 ・日本からのツアーの受入れ・交流	4 月～ 3 月	カンボジア (シエムリアップ)
	・養護施設(NCCC)運営	・NCCC(New Child Care Center)をハート・オブ・ゴールド(里親制度にて運営)し養育する。ローカススタッフの人材育成 ・地域住民(お母さん)への女性エンパワーメント事業 ・日本の学校との交流		カンボジア (シエムリアップ)
	・自立のための職業訓練 & ソーシャルビジネス準備	・貧困層の子ども達の「自立支援センター(仮称)」の立ち上げに向け、美容技術ワークショップを開催。将来ソーシャルビジネスとしての経済的自立を目指す。		カンボジア (シエムリアップ)
	・子どもの健康増進・疾病予防	・学校に浄水器を設置することにより、安全な水を提供し、子ども達の疾病予防、健康増進に寄与する。		カンボジア
	・3.11 子ども animo プロジェクト	・復興支援として継続し、被災学校の支援 及び 被災学校との交流の推進。		宮城県 福島県
国際理解・交流事業	・スタディツアー受入・協力 ・青少年交流(Youth to Youth) 国際協力の現場視察とボランティア体験を通じた国際理解	・実際に現地を見学し、交流することにより貧困・環境・平和・開発などの問題について理解を深める。企画ツアーを実施(夏・冬に活動できる参加型ツアーを計画) ・学生・団体のスタディツアー受入れ協力(中学・高校・大学・団体など)	4 月～ 3 月	カンボジア
	・サービスマスター(学校教育支援) ・持続可能な開発のための教育 / 岡山型 ESD 推進事業 ・研修・啓発・講演会 ・インターン受入(国内外)	・要請に応じて学校や団体に講師を派遣 インターネットライブや文通、メールによる現場との交流・情報提供。国際協力、交流、理解、開発などの実践的学習活動の場を学校に提供。 ・グローバル人材育成のための ESD 推進事業(岡山市教育委員会 / 先生方の海外研修視察事業)に協力。 ・国際協力等のシンポジウムやパネル展、講演会などを開催・講師派遣 ・インターンの受け入れ。	4 月～ 3 月	日本 カンボジア
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	・出版/調査/研究など ・通信・ネット等での啓発活動	・学会発表、調査研究、シンポジウム、世界会議などへの参加。 ・スポーツを通じた協力や持続可能な開発について啓発活動実施。 ・ホームページ改訂・記録映像の保存	4 月～ 3 月	日本 カンボジア

(2) その他の事業

定款の事業名	概要	事業内容	実施日	実施場所
バザーその他物品販売事業	チャリティバザーの実施やグッズ販売・パネル展示	Tシャツ、キャップ、本などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く集める。これに並行し、活動内容の広報を行うとともに、国内での活動支援者層の拡大を図る。各地域で開催されるイベントへの参加。	随時	日本

2014年度 事業報告書

(2014年4月1日～2015年3月31日)

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業概要	事業内容	実施日	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン後援 ・アンコールウォーキング大会	・第19回を迎えた今大会は、79の国と地域から、8271人が参加。 ・遺跡内で現地の子も達とウォーキング大会を開催。(NCCCの子も達のデザインのTシャツを着て、エイズ予防の広報活動を実施)	12/5～ 12/7 (12/9)	カンボジア (シムリアップ)
	・スポーツイベント ・チャリティーイベント	・国内のチャリティーマラソン・スポーツイベントなど実施・協力 ・チャリティーイベントの主催・後援・協力など開催協力	4月～ 3月	日本 (全国)
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興 ・招へい(日本での短期研修) (JICA草の根技術協力事業) ・運動会実施の指導 ・カンボジア小学校サッカー大会 ・スポーツ施設設置・建築 ・中学校体育科教育支援	・カンボジア小学校体育科教育普及第3フェーズを実施。MoEYS担当官12名の増員・育成。8州でワークショップ・モニタリングを実施。MoEYS担当官12名の日本での研修を実施。JICA地球ひろばで報告会開催。 ・カンボジア教育省主導の運動会の実施及び指導技術の確立 ・第3回HG杯ジュニアサッカー大会を開催(16州から221人が参加) ・体育教育実施の学校に必要なスポーツ施設や用具を支援 ・小・中の一貫した体育科教育の確立のため1～3月に活動 ① 態調査 ②本邦研修 ③日本の専門家によるワークショップ開催	4月～ 3月 1月～ 3月	カンボジア 8州(ワークショップとモニタリング) 日本
	障がい者支援事業	・障がい者スポーツの振興 ・日本の大会へ招へい	・障がい者スポーツ振興支援(CDAFトレーニング支援) ・障がい者ランナーの日本のマラソン大会への招へい	4月～ 3月
被災地、紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育 ・留学	・「ハート・オブ・ゴールドむつみ日本語教室」での日本語教育(3クラス、64名) ・現地ステイター訪問者の受入れと交流 ・日本語教室の生徒を岡山学芸館高校へ留学(4月～3月)	4月～ 3月	カンボジア (シムリアップ) (スパイリエン)
	・養護施設(NCCC)運営 (日本国際協力財団支援事業) (岡山県 LtoL 技術移転事業)	・ハート・ヘアレント(里親制度)で孤児や貧困児童を受入れ養育する。 ・地域住民(お母さん)への保健・栄養・料理教室開催 ・ローカルの研修(日本での短期留学を含む)の実施 ・日本からの歯科医による虫歯の治療・予防教育の実施		
	・子どもの健康増進・疾病予防	・3ヶ所に浄水器を設置(ピトゥス小学校、NCCC子ども達にきれいな水を提供できるようになり、疾病予防、健康増進に寄与できる。		
	・自立のための職業訓練&ソーシャルビジネス準備 (美容ワークショップの開催)	・日本人美容師による美容技術向上のためのワークショップを8回実施。延べ人数61名が参加。日本の美容学校では当然教えている事も、カンボジアでは教えていないことが多く、日本の美容技術を教えられる学校のニーズは大いにあると思われた。		
・3.11子どもanimoプロジェクト	・野蒜小学校では、学校から要請された支援を継続実施。福島市の3つの小学校(蓬萊・佐倉、余目小学校)には、3基ずつ「太陽光街路灯」を設置。地域住民の方々にも夜間開放しているため有効。	宮城県 福島県		
国際理解・交流事業	・ステイター協力 ・青少年交流 国際協力の現場視察とボランティア体験を通じた国際理解	・実際に現地を見学し、交流、活動することにより貧困・環境・平和・開発などの問題について理解を深める。 ・企画ツアーを実施(ウォーキング大会や活動現場訪問/12月実施) ・学生や団体のステイターを受入れ活動に協力。(中学・高校・大学・団体など29回受入)	4月～ 3月	カンボジア
	・サービスマーケティング(学校教育支援) (持続可能な開発のための教育/岡山ESD推進協議会支援) ・研修・啓発・講演会 ・インターン受入(国内外)	・要請に応じて学校や団体に講師を派遣(18回) ・インターネットライブや文通、メールによる現場との交流・情報提供。国際協力・交流などの実践的学習活動の場を学校に提供。 ・10月、11月に岡山市で開催されたユネスコESD世界会議に協力。 ・国際協力のシンポジウムパネル展講演会などを開催、講師派遣(20回) ・個人インターンの受け入れ(3人)	4月～ 3月	日本 カンボジア
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	・出版・調査/研究など ・通信・ネット等での啓発活動	・AWHMの18年の記録DVD作成 ・学会発表、調査研究、シンポジウム、世界会議などへの参加 ・スポーツを通じた協力や持続可能な開発について啓発活動を実施	4月～ 3月	日本 カンボジア

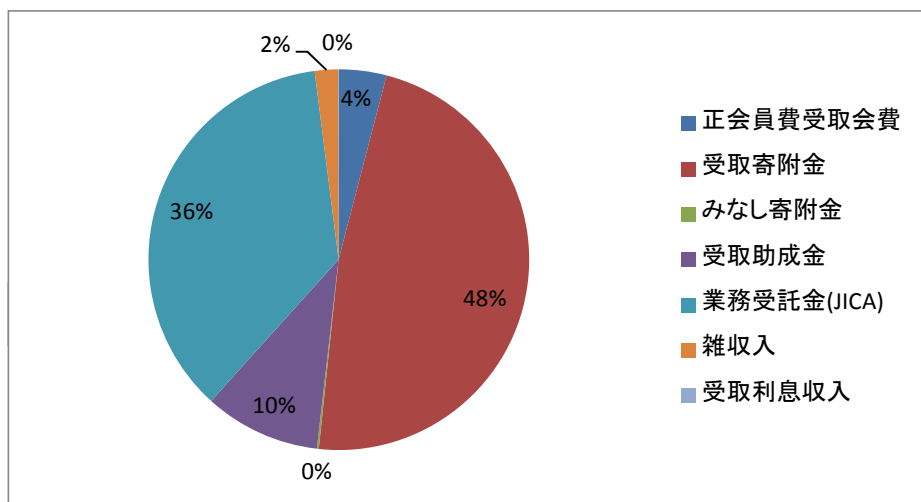
(2) その他の事業

定款の事業名	概要	事業内容	実施日	実施場所
バザーその他物品販売事業	チャリティーバザーの実施やグッズ販売・パネル展示	Tシャツ、キャップ、本などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く集める。これに並行して、活動内容の広報を行うとともに、国内での活動支援者層の拡大を図る。各地区で開催されるイベントにも参加。	随時	日本

2014年度会計報告

■収入の部

正会員費受取会費	2,799,000
受取寄附金	32,912,354
みなし寄附金	108,561
受取助成金	6,800,570
業務受託金(JICA)	25,074,321
雑収入	1,368,861
受取利息収入	32,379
収入総合計	69,096,046



■支出の部

国内外におけるスポーツ大会・イベントの運営協力事業	4,117,059
スポーツを通じた開発支援事業	29,819,629
カンボジア障がい者支援事業	1,130,594
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	16,803,004
国際理解・交流事業	998,692
その他(広報・研修・啓発ほか)	1,240,369
管理費	9,607,407
支出総合計	63,716,754
当期経常額	5,379,292

